

「父の役割」

～受けるより与えるものへ～

ルカ6：27～45

■ 役割がわかっていますか…

「父親不在伝染病」という研究の結果があります。これは、父親が亡くなったり、帰って来なかったりという実際にはないということではなく、父親はいるのだけれど家の中で不在、つまり、存在の役割を果たしていないということです。その結果どのような問題が起こるのかという研究の結果です。その結果の一つ紹介すると「少年院に収容されている若者の85%は、父親のいない家庭の子（全国平均の20倍）」というものがあります。父親の役割と母親の役割は違います。自らの役割が何であるのかをきちんと理解され、その役割が果たされていることがとても大切なのです。

■ 何を伝えていくのか…

今日の聖書の箇所は山上の垂訓と言われるところで私達クリスチャンがしなければならないとても大切なメッセージです。「あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くしなさい。」(36節)とありますが、「父」という言葉をわざわざ出して「あわれみ深い」とはどういうことなのでしょう。か。「あわれみ深い」はヘブル語で「ヘーレム」といいます。これは「母の胎」という意味です。ですから、聖書であわれみ深いといわれたらお母さんのお腹としてみてください。どうということかという、あなたがお腹の中で宿されているように守られている状態であるということです。あわれみ深さというのは、たとえその中で暴れようが何をしようがそこで守られているということです。「父が」といいながら母のイメージをここにわざわざ伝えているわけで、父の役割というのはこの母の役割というものを担っていて、母の役割とは父の役割を担っているということをお腹の中で伝えているのです。そして父と母がしなければならぬ最大のことというのがこの山上の垂訓の中に描かれています。

豊かになればなるほど両親は我が子に何かを与えようとするのこそうとします。けれど、親も子もそれぞれがその分というものを与えられているので、子どもが分を超えて何かを与えられるということは非常に危険です。全否定をしているのではなく時にはいい場合もあります。ただ、これは受ける側がよほど人格的に成長して受ける理由がわかっているならば良いということです。ですから与えたいのであれば受けるにふさわしいように子どもを育てなければなりません。

父と母の役割を果たす責任がどうすることなのかを今日の聖書箇所は教えています。

「あなたの敵を愛しなさい。」「憎む者に善を行いなさい。」「あなたをのろう者を祝福しなさい。」「あなたを侮辱する者のために祈りなさい。」「あなたの片方の頬を打つ者には、ほかの頬をも向けなさい。」「上着を奪い取る者には、下着も拒んではいけません。」…この箇所に書かれていることが父と母の役割なのです。できていますか?…できませんよね。けれど、これを守らなければ子ども達に良いものを与えることはできないということなのでしょうか。そうではありません。子ども達にとって大事なことはこの御言葉を実践しようとして闘う親の姿なのです。赦せない相手がいる、それでも赦さなきゃと思って神様の前に出ようとする姿です。

■ 同じ人はいません…

私達は命というものが与えられているのですが、この命というものはあなた自身がどう生きるのかというものが最初のテーマなのです。神様はあなたの人生に対してとても大きな計画とビジョンをもってあなたをこの地上に創造しました。同じ人はいません。けれど、似ている人はいます。例えば親子、兄弟姉妹です。価値観は遺伝していくからです。最初の命のテーマがずれてくると自分というものが見失われるのでモデルが欲しくなりそのモデルに似ようとしていくようになるのです。似ても意味がありません。父親と子どもの役割は違うし、兄弟姉妹の役割も違うからです。自分がなくなると誰かと同じようにしようとするようになるのが人間なのです。これが比較というものなのです。比較されていった人間がどうなっていくようになるかという、その相手に負けまいとして競争するようになります。

役割が違うのに相手と同じものをこのそうとしていくようになります。

■ 父的役割①父があわれみ深いように

まずこれが一番大事です。父と母が子どもにできるのは赦すことです。赦されるということが子ども達に変化を与えます。もちろんその前に厳しさは大切です。けれど赦すことが大切です。神様は私達にそうされました。そうされた人はそうしなければなりません。父の役割とは受けたものを流すという役割です。「なんで!?!」という時にこそです。「なんで」という言葉は自分が基準なのです。自分が基準になるとその怒りをおさめることができません。ですから自分の基準を降ろさなければなりません。父である神様が寛容であったように寛容でありたいです。

■ 父的役割②イエス・キリストの生き方 謙遜と仕える姿

仕えるという意味は辞書を調べると次のようになります。「仕」は「人」+「土」に区別できるようです。「土」とは男子。学問と道徳を修めた男子と言われるが、「土」はもともと、地面からまっすぐ十字に立つ人の様を表している。大切な「人」の横に、まっすぐ十字に立ってさきえている「土」の様を「仕」と表現しています。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」^{ルカ12:17}「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」^{マタイ12:28}「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。」^{マタイ23:4} イエス様のこの姿がそのとおりに作られた字です。人が立てなくなって寄りかかってくる様です。それを地べたにまっすぐ立った人が支えているということです。そしてそれが男であると言っているのです。そして、イエス様がされたことはルールではなく神様の心の通りに動かされました。これが謙遜というものです。謙遜とは従うということです。それが人々を癒し、変えていきました。

■ 父的役割③変わらない神様に求め続ける

「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」^{ヨハネ13:8} 神様はアブラハムの時もイサクの時もヤコブの時もダビデの時も…そしてあなたまで変わらないお方です。自分が裸であることをいつも教えて下さいと祈らなければなりません。私たちはこのことをすぐに忘れて、財・家・仕事・家族・友達…自分も持っているものを自分で管理したいと思うようになっていきます。私たちは自分が裸で生まれて裸でかきこに帰るということを忘れないでください。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」^{マタイ16:33} 私たちが求め続けていかなければならないことは主と共にいることと主が語られることを素直に聞けるようにという二つです。

祈りましょう

神様。あなたが私たちを愛するあまりに一番大切なひとり子を犠牲にされたことを日々思い出させて下さい。イエス様が歩まれた十字架の道を思い出させて下さい。どんなに失敗しても、弱さの中でこそあなたと共に歩むことを選び求め続けていくことができますように。

(要約者:全本 みどり)

(2018年6月17日)